

シリーズ 西淀川記憶あつめ隊

Vol.16

2016年4月26日
聞き取り



峰原 利範 さん

大和田にあるキング写真館は西淀川唯一の写真館です。現在の写真館を担う三代目の峰原利範さんにお話を伺いました。



昔のキング写真館



中学1年生だった昭和36(1961)年に第二室戸台風があり、写真館の2階から水没した大和田地区を撮影した写真。

◆正月の三日で1年喰える

「初代の時代の大和田は西淀川一の繁華街で、今でいう野田ぐらゐの規模で、芝居小屋やカフェがあったそうです。カメラが家庭に普及していない時代は正月の三日に家族写真を写真館に撮りに来てくれて、それだけの稼ぎで『一年間喰えた』と言われるほど」写真館は繁盛していたそうです。

◆入りやすいお店

「昔は沼地が多くて、葦がたくさん生えていて、ザリガニやフナを捕って遊びました。大野川の河口で泳いだこともあります。イチジク畑のなごりもあります」と、今とは全く違う西淀川の原風景が大和田には広がっていたようです。大和田といえば漁師町であり、商売人も多く「三のつく日は夜店が出て、夜店の数がすごかった」そうで、子どもの時の楽しみだったそうです。また、写真館には常に町の人たちが寄ってご飯を食べたり、相撲を見ており「入りやすい店だったんやろうね」と下町らしい一面も紹介してくれました。

◆国際色豊かな大和田

戦後ベビーブーマー世代の利範さんが淀中学校に通っていた時は、一学年に18クラスもあり、一クラスは50人を超えていたといえます。同級生には朝鮮半島にルーツを持つ人も多く、写真館の出張撮影に家に招かれることがあり「華やかで料理も豪勢で、キップもよかったです」とのこと。

「今は、モスクが近くにできたから、パキスタンの人たちが写真を撮りに来るよ。彼らは人当たりがいいね」と、国際色豊かな大和田の側面もちらり。

◆アナログからデジタルへ

写真館の仕事は結婚式の写真や家族の記念写真、学校や保育園の写真、工場の機械が新設された時の写真や、行政の工事写真など多種多様。西淀川には「湊鳳殿」という結婚式場があり、昭和50(1975)年ごろまでは結婚式の写真が中心だったそうですが、その後は教育現場の写真が中心になっていきます。「西淀川の空は黄色かったけれど、ちようどそのころからきれいになってきて今はビックリ。今は



今のキング写真館：〒555-0032 西淀川区大和田5-18-25 TEL:06-6471-2782

林